

福島第二原子力発電所からのお知らせ



2017年10月号

東京電力ホールディングス
福島第二原子力発電所

1～4号機は燃料の安定冷却を継続しています。発電所の最新状況やさまざまな取組みをお知らせします。

新入社員が各職場に配属されました

当所内の「原子力人財育成センター※」で4月から集合研修を受けてきた、原子力部門配属の新入社員。

9月には13名が当所の各職場に配属となり、先輩社員の指導の下、実務を開始しています。

また、10月からは、発電所の安全確保に必要な基本技能を習得するため、設備の巡視点検や操作を安全に行う手順を学ぶとともに、実際に現場設備の操作を行う実践的な研修を受けています。

※ 当社原子力部門の「人財」を育成するため、2016年12月に新たに設立した組織。



電源盤内の機器操作について先輩社員から学ぶ

原子炉安全グループ

発電所の安全確保に
貢献していきたい



大橋 彩夏（東京都出身）

原子炉安全グループは、停止中の発電所設備を安全に管理するため、保安規定を基に発電所の作業に対し支援を行っています。

私は、設備の状態を踏まえ、作業が燃料の安定冷却に影響を及ぼすことがないかを確認し、その結果を所内に周知する業務に携わっています。

職場では専門用語が多く、毎日が勉強です。

分からないことはそのままにせず、先輩に確認して業務の知識を身につけ、発電所の安全確保に貢献していきたいと思います。

放射線・化学管理グループ

放射線・化学管理グループは、放射線の測定や監視をすることで、現場で働く人が受ける放射線量が可能な限り低くなるよう管理をしています。

私は、職場の先輩から空間や設備の放射線量を測る方法を教わりながら、働く人が現場の放射線量の情報を確認できるよう表示板を更新するなどの放射線管理業務を行っています。

疑問に感じた時や不確かな状況では、立ち止まり、一つひとつ解決して、より安全な作業現場となるよう努めていきます。

放射線量を管理し
安全な作業現場を
目指します



山崎 恵太（いわき市出身）



県 廃炉安全監視協による調査

- 10月17日、福島県廃炉安全監視協議会※が、当所における地震・津波対策の実施状況を確認する現地調査を行いました。
- 調査では、大規模な津波で構内にガレキが散乱したとの想定で、「ドローン」による状況把握や重機を使ったガレキ撤去、電源車による電源回復など、これまで当所が繰り返し取り組んできた初動対応訓練を実施し、委員の皆さまに確認いただきました。
- 調査後、同協議会からは「適切な地震・津波対策がとられていた」「今後も訓練を繰り返し、県民に情報発信を」「燃料の安定冷却とともに、福島第一原子力発電所の廃炉に向けた後方支援の役割を果たしてほしい」等のご意見をいただきました。



重機を使ったガレキ撤去訓練を確認いただきました



※同協議会は、福島県と関係13市町村（いわき市、田村市、南相馬市、川俣町、広野町、楡葉町、富岡町、川内村、大熊町、双葉町、浪江町、葛尾村、飯館村）、ならびに学識経験者で構成されています。

地域とともに

今回は
富岡町です

「ふたばワールド2017 in とみおか」（9月30日）

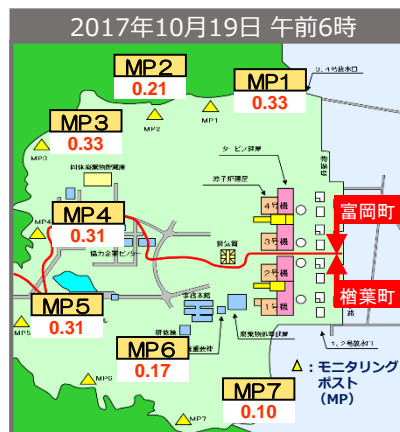
双葉郡8町村の住民が交流するイベント「ふたばワールド」が、富岡町で開かれました。



会場特設ステージでは、フラダンスやYOSAKOIなどが催され、ご当地グルメを使った出店やスポーツ体験コーナーは多くの家族連れで賑わいました。



発電所周辺の空間線量率



単位は、マイクロシーベルト毎時

参考データ

原子力規制委員会
放射線モニタリング情報より
(2017年10月19日午前6時)

富岡町
文化交流センター
(富岡町役場敷地内)
0.193
マイクロシーベルト毎時

楡葉町
楡葉町役場
0.086
マイクロシーベルト毎時

燃料の保管と冷却状況

- 燃料はすべて、1～4号機の使用済燃料プールで保管しています。
- プール水温度は約30℃で管理し、常に監視しています。
- プールの冷却が停止した場合、管理上の上限温度（65℃）に達するまで5～7日と評価しています。

	1号機	2号機	3号機	4号機
燃料の保管数	2,534体	2,482体	2,544体	2,516体

福島復興への責任を果たすために、福島第二原子力発電所は燃料の安定冷却を継続してまいります。

ご質問・ご不明な点がございましたら下記にお問合せ下さい。